



●ウサギ?シカ?

—アメフラシの仲間—

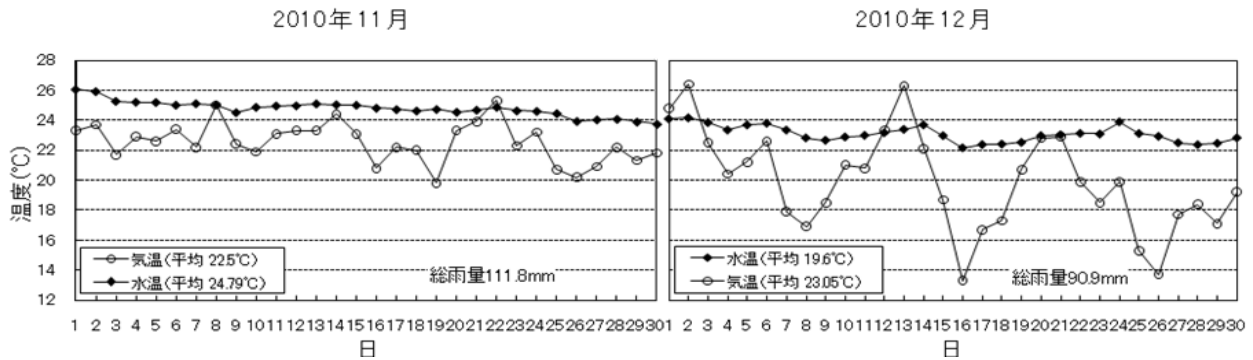
新年あけましておめでとうございます。いつになく寒い年末でしたが、無事に年が明けました。うさぎ年です。ウサギを英語で言うと? ほとんどの人は、ラビット (rabbit) と答えるでしょう。正解です。けれど、もう一つ答えがあります。ラビットよりも大型の野ウサギのことはヘア (hare) と言うのです。そして、シー・ラビットという名前の生き物はいませんが、シー・ヘアという名前の生き物があります。今回は、この‘海のウサギ’の話をしていきましょう。

さて、ではシー・ヘアとは、何でしょうか。それは、アメフラシのことです、といってもアメフラシのことを見たことのない人もいるかもしれません。内地の海では、初夏のころに潮だまりなどでよく見かける動物で、体長は 15~40cm もあり、いじめると紫色の汁を出すことでよく知られているのですが、慶良間の海

では、あまり見かけません。そのかわりに、タツナミガイというとても近い種類をよく見かけます (冒頭の写真)。アメフラシの仲間には、頭に大きな触角があり、それをウサギの耳になぞらえて、英語の名前になったようです。ちなみに、ドイツ語 (Seehase) でもオランダ語 (zeehaas) でも、おまけに中国語 (海兔) でも、アメフラシは、“海のウサギ” だそうです。日本では、場所によってはウミシカと呼ぶそうで、これも触角の形からでしょう。

アメフラシの仲間は、外側がぶよぶよしていてナマコみたいですが、実は巻貝の仲間です。こう書くと少し詳しい人は「ウミウシのこと?」と思うかもしれませんが、近いけれども厳密にはアメフラシとミウシとは違うグループです。ウミウシにはまったく貝殻がないのですが、アメフラシの仲間には、外からは見えないものの背中に小さな貝殻のなごりをもっています。また、エサも違って、ウミウシは肉食性なのに、アメフラシは海藻を食べます。それでは、逆にアメフラシは、何に食べられるのでしょうか。実は、いろいろ調べてみたのですが、アメフラシを食べる動物のことを 1 種類以外に見つけることができませんでした。もしかしたら、体に毒があって、ほかの動物には食べられにくいのかもかもしれません。では、その 1 種類だけ見つけたアメフラシを食べる動物は何かというと、人

定点観測



間でした。トンガなどの南洋だけでなく、日本でもアメフラシを食べる習慣があるそうです。しかし、その一方で、食べると腹をこわすという話もあります。もしかしたら、アメフラシの食べるエサによって、体に毒をもつものとそうでないものができるのかもしれませんが。ちなみに、慶良間に多いタツナミガイも、フィリピンなどでは食用にされていますが、アメフラシと同じでエサによって毒のあるなしがあるかもしれませんから、うかつに食べないほうがよさそうです。わりとふつうにいる動物ですが、慶良間にもタツナミガイを食べる習慣はあるのでしょうか？

食べる以外にも、アメフラシは、人間の暮らしにかかわりをもっています。実は、アメフラシの神経はとても大きく、医学的な実験をするのに好都合なのです。それで、記憶の研究などが盛んに行われており、アメリカのフロリダでは、実験材料としてアメフラシの養殖もおこなわれています。3年ほど前に見に行ったときには、学校の教室2部屋分くらいのところで大小さまざまなサイズのアメフラシが3万匹くらい育てられていました。そして、2007年には、このアメフラシの神経を使った研究で、アメリカの博士がノーベル賞を取ったこともあるのです。また、最近では、アメフラシの体内に、がんを抑える物質が含まれていることがわか

ってきて、日本でも研究が進行中のようです。もしこれが実用化されれば、私たちみんなにとって大変明るい発見となります。海の中で地味な色合いで、もそもそはい回っていて、あまりぱっとしない印象のアメフラシですが、ひそかに、けれど大いに人間の生活に役にたっているのです。

● 阿嘉島の海より

昨年の12月、阿嘉島のサクバルに潜ってサンゴの調査をしていました。そしてなんとなく気配を感じて顔をあげると、10mほど先に巨大な塊りが動いていました。最初は普段海の中で見ることのない大きな体におどろいて、それがザトウクジラだと頭で理解するまでに数秒かかったように思います。体長は6-7mほどでしたので、まだ子どものクジラでしょう。クジラはすぐに姿が見えなくなりましたが、興味を持ったのか、すぐに戻ってきました。



おどろかすとかわいそうなのでじっと動かずに見ていました。クジラは少しの間、その大きな体で優雅に泳ぐ姿を見せてくれましたが、やがてどこへともなく泳ぎ去って行きました。クジラのシーズン到来です。

それでは今年も一年、よろしくお祈りします。

